

児童教育専攻科
令和 7 年度シラバス

筑波研究学園専門学校

目 次

児童教育専攻科

【教科目名】	【授業科目名】	ページ数
教職科目	生徒指導・進路指導	1
	教育制度・行政論	2
	こども理解の理論と方法	3
	道徳教育論	4
	特別活動指導法	5
	国語科指導法	6
	算数科指導法	7
	理科指導法	8
	社会科指導法	9
	家庭科指導法	10
	図工科指導法	11
	外国語（英語）指導法	12
	生活科指導法	13
	音楽科指導法	14
	体育科指導法	15
	総合的な学習の時間の指導法	16
	特別支援論	17
教科科目	国語	18
	算数	19
	理科	20
	社会	21
	書写	22
	（選）生活	23
	（選）音楽	24
	（選）家庭	25
	（選）体育	26
	保育内容（人間関係Ⅱ）	27

	保育内容（健康Ⅱ）	28
	保育内容（環境Ⅱ）	29
	こどもと表現Ⅰ	30
	こどもと表現Ⅱ	31
	こどもと表現Ⅲ	32
	身体表現	33
総合研究	児童教育研究Ⅰ	34
	児童教育研究Ⅱ	35
	児童教育研究Ⅲ	36
	児童教育研究Ⅳ	37
学外実習	（選）小学校教育実習指導	38
	（選）児童教育研究Ⅴ	39
	（選）小学校教育実習	40
	（選）児童教育研究Ⅵ	41
	（選）介護体験実習	42
	（選）児童福祉研究	43
	地域ボランティア	44

授業科目名：生徒指導・進路指導		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教職に関する科目		・ 生徒指導、教育相談等 ・ 生徒指導の理論及び方法 ・ 進路指導の理論及び方法	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 児童生徒一人ひとりの人格を尊重しつつ、社会的な能力・態度の育成を図り、さらに現在及び将来における自己実現を行う力の育成を目指す「生徒指導」のあり方を学ぶ。自らの生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、進路を自己の意思と責任で選択し決定することができる「進路指導」のあり方を学ぶ。			
授業の概要 本授業は、「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との構内の連携も含めた対応の在り方」などを中心に進めていく。特に児童生徒全体への指導においては、チームによる支援、学校種間や学校間の連携の重要性について理解を深めていく。進路指導においては、学校で学ぶことと社会との接続を踏まえ、一人一人の社会的・職業的自立に向けた必要な資質・能力を育む進路指導・キャリア教育の意義や原理について学んでいく。			
授業計画 1. 生徒指導の原理 2. 生徒指導と教育課程との関連 3. 進路指導の原理 4. 生徒指導の組織体制 5. 児童・生徒の問題行動とその対応 6. 生徒指導体制のあり方 7. 児童・生徒理解と生徒指導の方法 8. 児童・生徒理解の意味と機能 9. 生徒指導の方法 集団指導 10. 生徒指導の方法 個別指導 11. 進路指導の理念と実際 12. 進路指導の進め方 13. キャリア教育 14. 無職少年問題について 15. 生徒指導推進計画実践例 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「生徒指導・進路指導」長瀬善雄／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：教育制度・行政論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教育の基礎的理解に関する科目		・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ わが国の学校教育制度・教育行政の基本理念・体系について、日本国憲法、教育基本法、学校教育法などの教育関連法規を通して体系的に理解する。			
授業の概要 教育制度・行政に関する基礎概念・基礎的論点・課題に関する理解を深め、教職に必要な教育制度・行政に関わる知識を獲得する。 テキストだけでなく関係資料を効果的に活用するよう促し、自主的な学びを進める。			
授業計画 1. 我が国の教育制度の理念と概要 2. 学校教育制度の概要 3. 戦後の学校教育制度の変遷 4. 学校教育の現状と課題 5. 義務教育制度の理念と概要 6. 小学校の教育課程 7. 幼稚園の保育内容 8. 社会教育制度の概要 9. 生涯学習の理念 10. 我が国の教育行政の理念と概要 11. 国の地方の教育行政機関の組織と約割及び教育行政機関相互の関係 12. 教育行政機関と学校の関係 13. 教科書制度の概要 14. 教職員制度の概要 15. 学校施設の整備 16. 試験			
テキスト 「現代教育の制度と行政」河野和清／編著（福村出版） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

[illegible]

授業科目名：道徳教育論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		・道徳の理論及び指導法	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学		
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の意義と本質及び目的、道徳教育の基本的課題の明確化、道徳教育の歴史的発展、外国の道徳教育の実情とわが国の道徳教育の比較などを展開する。			
授業の概要 「道徳」全般に関わる様々なテーマを扱う。道徳教育の今日的意義と重要性、道徳教育の歴史的変遷、道徳教育の法的な根拠、全教育活動における道徳教育、道徳の時間における道徳教育についての基本的な知識を習得し、今後の道徳教育の実践に役立てる。			
授業計画 1. 道徳教育の本質 2. 幸福な生き方と道徳教育 3. 道徳教育の今日的意義と重要性 4. 人間の心の成長 5. 道徳性の発達に関する理論 6. 明治から戦前までの道徳教育の変遷 7. 戦後の道徳教育変遷 8. 学校における道徳教育の基本的押さえ 9. 「特別の教科 道徳」における道徳教育 10. 全教育活動における道徳教育 11. 学校・家庭・地域連携による道徳教育 12. 幼・小・中連携による道徳教育 13. 外国の道徳教育はどのようになされているか 14. 今日的課題に対応する道徳教育の探求 15. 多様な道徳教育の探求 16. 試験			
テキスト 「自ら学ぶ道徳教育」押谷由夫／著（保育出版社） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：特別活動指導法		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		・特別活動の指導法	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 特別活動の意義及び目的を学習指導要領の中で確認し、理解する。さらに、特別活動の意味を明確に理解し、また学級活動、生徒会活動、学校行事などのそれぞれの特質を明確にする。			
授業の概要 特別活動は教科、道徳、相互的な学習の時間とともに教育活動を担う重要な領域である。特別活動の意義及び目的を学習指導要領の中で確認し理解する。さらに、特別活動の歴史的発展をみることで今日の特別活動の意味を明確にする。また、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事などのそれぞれの特質を概説する。その上で、現在の学校の病理と特別活動の関連を考察し、特別活動の実践的指導力を身に付けることの重要性を認識できる学びにする。			
授業計画 1. 教育の歴史に見た特別活動 2. 学究生活と学校生活の重視 3. 教育目的・目標から捉えられる特質 4. 指導の内容に注目した特質 5. 小学校の特別活動の変遷 6. 中学校の特別活動の変遷 7. 特別活動の歴史 8. 学校の教育計画・教育課程と特別活動 9. 特別活動と道徳教育について 10. 学校教育課程の編成・実施と特別活動 11. 特別活動の評価と実践 12. 特別活動と全体指導計画と年間指導計画 13. 小学校の「クラブ活動」の「年間指導計画」 14. 学校行事の「年間指導計画」 15. 特別活動と現代の課題 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「特別活動指導法」上寺常和／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：国語科指導法		授業形態：講義 ＋集中	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・国語（書写を含む。）	
太田 裕子	[実 務 経 験]特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ]教育学・学校教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 国語は日常生活に必要な役割を果たすとともに、知的活動の基礎となる重要な存在である。学習指導案の作成および実地の授業の模擬演習を行い、国語の指導への経験を積んでいく。			
授業の概要 各領域の具体的な教材研究のあり方について事例研究を行う。全体指導計画に基づく学習指導案を作成し、評価基準の設定に取り組むとともに授業研究を行う。授業を組み立てる力を育成し、授業改善の指標を明らかにする。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 国語科教育の目標・内容 3. 「話すこと・聞くこと」領域 4. 「書くこと」領域 5. 「読むこと」領域 6. 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」 7. 読書指導 8. 国語科教材研究の方法 9. 国語科教材研究の視点 10. 国語科学習指導案の実際 11. 指導案作成 12. 〃 13. 〃 14. 授業研究 15. 学習評価について 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「国語科指導法」渡瀬茂／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。 教科書、辞書等忘れ物をしないこと。			

授業科目名：算数科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・算数	
倉田 通男	[実 務 経 験]小学校教諭・中学校教諭（数学） [研究テーマ]数学科・教育学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 数量や図形についての算数的活動を通して、基礎的な知識と技能を身につけ、日常の事象についての見通しをもち、筋道を立てて考える能力を育てるとともに、活動の楽しさを学ぶ。			
授業の概要 この授業では、小学校算数科の指標ができる教師を育成するために算数的活動や教具の活用法、学習形態などを考え指導方法を習得することを目的とする。どのような算数的活動の場を設定するのか、知識・理解の獲得をより確かなものにするためにはどのような指導方法を用いるのかを具体的に検討し、授業研究において実践的に学ぶ。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション、なぜ算数を学ぶか 2. 算数教育とその目標の変遷 3. 新学習指導要領算数の改訂のポイント 4. 算数的活動による学び 5. 問題解決と数学的な考え方 6. 整数と計算 指導の背景と実際 7. 小数と計算 指導の背景と実際 8. 分数と計算 指導の背景と実際 9. 量と測定 指導の背景と実際 10. 図形 指導の背景と実際 11. 数量 指導の背景と実際 12. 指導案作成 13. // 14. 授業研究 15. 学習評価について 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「算数教育の理論と実際」数学教育研究会／著（聖文新社）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：理科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・理科	
森寄 正幸	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育・教育方法・教育課程・理科・保育内容「環境」分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 理科教育は実験や野外観察を通して発見学習や思考学習などが必要となる。自らの授業体験や指導案の作成を行い、教員としての心構えや実践力を養う。			
授業の概要 本校議のテーマは「与えられて学ぶ理科」から「教えるための理科」へ転換するところにある。「やる気」を起こさせるにはどうすればいいのか、教える側の立場で実践から学ぶ。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション、理科の目標 2. 理科の変遷と改訂の要点 3. 物理分野の学習材と指導例 4. 化学分野の学習材と指導例 5. 生物分野の学習材と指導例 6. 地学分野の学習材と指導例 7. 学習指導案 8. " 9. 指導計画作成 10. " 11. 導入の工夫 12. 問題解決学習、系統学習、探究学習 13. 安全指導 14. 理科学習の評価と授業研究 15. " 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「理科指導法」内山裕之・秋吉博之・溝邊和成／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・社会	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 社会科教育の目標、内容及び指導の方法について理解するとともに、社会科担当教員として必要な基礎的基本的な知識を身につける。また、使命感を養うことを目標として、講義と授業研究を行なう。			
授業の概要 学習指導要領における社会科の目標と内容について解説した後、社会科の基本的な方法原理「問題解決」「理解」「説明」「議論」について、具体的な授業実践を事例として考究する。さらに、社会科の学力・評価理論、教材研究の理論、学習指導の具体的な方法について学びを深める。以上を通して、授業研究を実施し、授業設計を行うことのできる実践的な能力を身につける。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション、社会科改訂の考え方 2. 学習指導要領社会科改訂のポイント 3. 年間指導計画作成のポイント 4. 新しい授業作りに向けて、法やきまりに関する内容 5. 自然環境、伝統や文化などの地域資源の保護、活用に関する内容 6. 我が国の国土に関する内容 7. 情報通信に関する内容 8. 問題解決的な学習を充実させる方法 9. 社会科の成立 10. 個を活かした社会科の授業づくり 11. ICTを活用した社会科の学習指導法 12. 社会科における調べ方、学び方の指導法 13. 単元指導計画と学習指導案の設計 14. 授業研究 15. 指導と評価について 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「社会科教育のルネサンスー実践知を求めてー」原田智仁／編著（保育出版社）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：家庭科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・家庭	
埴 光子	[実 務 経 験]高等学校教諭（家庭科） [研究テーマ]家庭科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 衣食住などに関する実践的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的な知識と技能を習得させるとともに、家庭生活についての理解を深める。また、家族の一員として家庭生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。			
授業の概要 小学校家庭科は、実践的・体験的な学習を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術を習得させることにある。家庭科指導法では、学生の指導力と評価力を高めることを目標として、学習指導案及び評価基準の作成を取り入れ、教育現場で役立つ実践力を高めたい。また、児童が興味関心をもつような学習教材の開発や新たな指導方法などについて取り組む指導者としての資質・能力を身に付ける。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 新しい家庭科を目指すもの 2. 学習指導要領改訂のポイント 3. 〃 4. 指導項目について 5. 新しい授業作りにむけて 6. 年間指導計画作成のポイント 7. 実践・新しい授業づくり 8. 〃 9. 学習指導案作成 10. 〃 11. 授業研究 12. 裁縫の基本と指導法 13. 〃 14. 調理の基本と指導法 15. 〃 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：図工科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2 単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・図工科	
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 図工科の教育目的と内容を理解し、学習指導要領に基づいて「A 表現」「B 鑑賞」、新たに導入された「共通事項」も含めて学ぶ。理論的な面と実践的な教材研究も交えながら学習指導の力を身に付ける。			
授業の概要 小学校「図画工作」の授業を行うために必要な知識と技術を学ぶ。幼稚園での表現内容（5 領域の造形分野）と低学年（1、2 年）の図画工作の関連、さらに、中学年（3、4 年）、高学年（5、6 年）の身体や精神の発達を踏まえた発想や表現力について理解する。絵画、立体、工作、造形遊びを中心に、講義、演習課題、指導のポイント等をいくつかの課題を行いながら、授業を進める。授業計画（指導案）、評価等について講義、課題などで実践指導を学ぶ。（情報機器、教材利用）			
授業計画 1. 図画工作科教育について 2. 小学校学習指導要領図画工作編の目標・内容 3. 図画工作科の構成 4. 図画工作科の内容について 5. 指導計画の作成と内容の取扱い 6. 造形遊びをする活動 7. 絵に表す活動 8. 立体に表す活動 9. 他教科や総合的学習との関連での表現活動について 10. 鑑賞について 11. 図画工作科指導計画について 12. 図画工作科指導案作成について 13. " 14. 授業研究 15. 学習評価について 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「図工科指導法」井上龍彦／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：外国語（英語）指導法		授業形態：講義 （集中）	単位：2単位 授業時間数：30H
教科又は教職の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・外国語	
富倉 志保	[実務経験]豪州私立中高等学校・インターナショナルスクール日本語教師 [研究テーマ]外国語教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 学習指導要領の「外国語活動の目標」に従って、外国語を通じて言語・文化の体験的理解と積極的コミュニケーション能力を図ろうとする態度の育成、並びに外国語の音声や基本的表現に慣れ親しませつつ、コミュニケーションの能力の素地を養うことを児童に指導するための理念や教育学的視点を学習する。			
授業の概要 小学校における外国語教育に関わる背景知識（第二言語習得理論等）・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、多様な指導環境（TT、ICTの活用等）について学びを深めるとともに、授業研究を通して授業実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。			
授業計画 1. 外国語教育の意義 2. 外国語活動導入の経緯、見城と展望 3. 小学校の外国語活動で目指すもの 4. 英語教育全体における小学校外国語活動の役割 5. 評価の意義と評価方法 6. カリキュラム・年間指導計画作成のポイント 7. 授業づくりの視点 8. 学習指導案作成 9. 授業研究 10. 特別支援教育における外国語活動 11. 求められる教員の資質 12. 教材の使い方・選び方と開発方法 13. ICTのより良い活用を考える 14. 中学校の英語教育と小学校との接続 15. 指導の基本と留意ポイント 16. 試験			
テキスト 「小学校教育法入門」樋口忠彦・加賀田哲也・泉恵美子・衣笠知子／著（研究社） 「We can!1」（文部科学省） 「We can!2」（文部科学省） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：生活科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・生活	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 小学校1・2年生に開かれた科目生活に関して、その具体的な指導方法や運営方法について学ぶ。幼年期から児童期にかけてのこどもの発達状態について理解するとともに具体的な生活経験や活動を通してのこどもの成長や発達を支援していく方法について深める。			
授業の概要 小学校学習指導要領から、生活科の目標・内容についての理解を図り、教科の特性である活動や体験の大切さに気付く。また、幼児教育との連携も視野に入れ、生活科は保幼小の段差解消に大きな役割を果たすことを理解する。具体的な各内容については、指導計画や学習指導の充実と共に具体的な授業展開を学ぶことにより、実践的な態度を身に付ける。			
授業計画 1. 小学校教育課程における生活科 2. 生活科のめざすもの 3. 目標の構成・趣旨① 4. 〃 ② 5. 内容の構成要素 6. 授業展開のための留意点 7. 生活科の目標・内容 8. 指導計画作成上の配慮事項 9. 学習指導案の作成 10. 授業研究 11. 生活科の授業計画と学習指導要領のポイント 12. 生活科における指導計画 13. 生活科の目指す学力 14. 生活科における評価のあり方 15. 生活科の授業展開について 16. 試験			
テキスト 「生活科指導法」戸江茂博・内山裕之・長瀬善雄／著（姫路大学） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：音楽科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・音楽	
倉田 照子	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 音楽教育の理念を理解するとともに、音楽活動を通して感性を養い、こどもの創造性を積極的に促すことのできる指導法について学ぶ。			
授業の概要 本授業の目的は、音楽科教育における活動のあり方について深く理解し、こどもの感性を刺激し豊かな表現力を引き出す音楽的活動を創造することのできる能力を育成することにある。歌唱やリコーダーをはじめとする楽器の演奏、また音楽づくりを通して、楽曲の活用法、学習形態などを考えながら音楽科の指導方法を身につける。			
授業計画 1. 音楽教育の理念 2. 音楽教育と人間形成 3. 感性と表現 4. 小学校音楽教育の目指すもの 5. 学習指導要領改訂の基本方針 6. 音楽科の目標・内容 7. 現代の主な音楽教育家の思想① 8. 〃 ② 9. 表現（歌唱） 10. 表現（器楽） 11. 表現（音楽づくり） 12. 学習指導案作成 13. 授業研究 14. 学習評価について 15. 共通教材について 16. 試験			
テキスト 「音楽科指導法」山本千紗／著（姫路大学） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：体育科指導法		授業形態：講義 (集中)	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・各教科の指導法（情報機器及び教科の活用を含む。） ・体育	
塩野 健一	[実 務 経 験]小学校教諭・中学校教諭（保健体育）・放課後児童クラブ主宰 [研究テーマ]教育・教育課程・体育科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 現代社会における小学校体育科の必要性を把握したうえで、学校体育科の内容構成を理解する。また、模擬授業の経験を通して、体育科の具体的な指導方法を学習し、実践的指導力を習得する。			
授業の概要 本授業は、「よい体育授業」を行うための基礎的理論とその実際を学ぶ。学習指導要領体育科の目標、内容を踏まえた上で、体育授業の根幹をなす「教材づくり」と体育指導及び評価について学習し、授業研究と振り返り（授業改善）を通して実践的な能力を身につける。また、保健領域の内容と取扱いについても学習する。			
授業計画 1. 小学校体育とこどもの変化 2. 学習指導要領における体育科の改訂 3. 改訂のねらいと方針 4. 小学校体育の基本方針とからだの発達 5. 体力の構造と発達段階 6. 第1学年及び第2学年の目標及び内容 7. 第3学年及び第4学年の目標及び内容 8. 第5学年及び第6学年の目標及び内容 9. 教科目標、評価の観点及びその趣旨 10. 指導案作成① 11. 〃 ② 12. 授業研究 13. 指導計画の作成と各学年にわたる内容の取扱い 14. 達成目標と評価規準の概略 15. 具体的な達成目標と評価 16. 試験			
テキスト 「体育科指導法」鈴木雅裕／著（姫路大学） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：総合的な学習の時間の指導法		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	
木村 祐介	[実 務 経 験] 小学校教諭 [研究テーマ] 教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 総合的な学習の時間の意義と原理の理解 ・ 総合的な学習の時間の学習指導の基本的な考え方 ・ 総合的な学習の時間における指導計画の理解 ・ 総合的な学習の時間の指導と評価の理解			
授業の概要			
本授業は、変化の激しい社会に対応して「生きる力」を育むために自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動できる子どもを育成する指導法について概説する。具体的には横断的・総合的な学習、探究的な学習などに主体的、創造的協働的に取り組むことが出来るようにするための学習指導の基本的な考え方、目標、育てようとする資質や能力及び態度と内容の関係、評価、校内組織の整備などについて学習する。			
授業計画			
1. 授業オリエンテーション 2. 総合的な学習の時間の趣旨 3. 総合的な学習の時間のねらい 4. 総合的な学習の時間の学習の在り方について 5. 〃 6. 他者と協同して課題を解決する意義について 7. 〃 8. 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題の設定の意義① 9. 地域の人々の暮らし、伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題の設定の意義② 10. 総合的な学習の時間における体験活動の適切な位置づけ 11. 〃 12. 総合的な学習の時間における児童の学習状況の評価について 13. 〃 14. 探究的な学習にするための要件 15. 〃 16. 試験			
テキスト			
「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等			
プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：特別支援論		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教育の基礎的理解に関する科目		・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	
青柳 賢治	[実 務 経 験]教育相談員・スクールカウンセラー・高等学校教諭（英語） [研究テーマ]教育相談・発達心理学・教育心理学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 特別支援教育を支える個別の教育支援計画、個別の指導計画、連携のあり方について理解する。			
授業の概要 ・発達障がいおよび軽度知的障がいの幼児および児童に対する主な療法について学び、さらに症状別の対応について学ぶ。 ・特別支援教育の教育課程における通級指導、自立活動、個別の指導計画、個別の教育支援計画を学ぶ さらに関係機関との連携について学ぶ。 ・障害はないが特別な教育的ニーズのある幼児および児童の学習上または生活上の困難とその対応を学ぶ。			
授業計画 1. 感覚統合上の問題について 2. 特別の教育的ニーズのある幼児、児童、生徒の学習上、生活上の困難に対しての対応① 3. 〃 ② 4. インリアルアプローチについて 5. インリアルアプローチで用いられる「言語心理学的技法」について① 6. 〃 ② 7. TEACCHプログラムの実践について① 8. 〃 ② 9. 「通級による指導」および「自立活動」の教育課程上の位置づけ、内容① 10. 〃 ② 11. 偏食のあるこどもへの対応 12. 障がいの疑いがあるこどもの保護者への対応① 13. 〃 ② 14. 学習上の困難なこども（外国の子）への対応① 15. 〃 ② 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：国語		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
領域および保育内容の 指導法に関する科目		・領域に関する専門的事項 ・国語	
太田 裕子	[実 務 経 験] 特別支援学校教諭・日本語教師 [研究テーマ] 教育・学校教育・国語科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
木村 祐介	[実 務 経 験] 小学校教諭 [研究テーマ] 教育学		
授業の到達目標及びテーマ 国語の基礎力となる聞くこと、話すこと、読むこと、書くことを能動的に行うことにより、基礎力を身に付けると共に、幼児・児童の実態に即した国語教育のあり方を学ぶ。			
授業の概要 幼児児童のことばの発達を助けたり、小学校の国語科の教授を行ったりするための基礎を学ぶ。国語についての知識を学び、国語への認識を深め、日常的なことばを客観的・反省的に捉え、よりよく使用できるように、国語への意識を高めることを目的とする。具体的には、国語の音韻音声・文法・語彙・文字・歴史・方言・国語政策など、国語を構成する各分野についての概説を行うとともに、言語の習得などについても扱う。その過程から美しい日本語の表現に気づき、豊かな感性を養う。			
授業計画 1. オリエンテーション 2. 母語とは 3. 日本語の系統 通用範囲 公用語 4. 日本語の歴史 5. 話し言葉と書き言葉 6. 仮名遣いの変換 7. こどもの言語習得について 8. 言語の恣意性 9. こどもの言語権 10. 日本語の文法の特徴 11. 敬語 12. 人の成長と語彙 13. 語彙の三分類 14. 助数詞について 15. 試験対策 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「国語Ⅰ（国語）」渡瀬茂／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。 レポート提出期限厳守のこと。			

授業科目名：算数		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教科に関する科目		・算数	
倉田 通男	[実 務 経 験]小学校教諭・中学校教諭（数学） [研究テーマ]数学科・教育学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 算数教育の特徴的な条件は、構造的な系統性と抽象性である。この二つの主要な視点より、教材研究についての講義を行なう。			
授業の概要 小学校算数科の主要な単元に関する教材研究を通して、算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教材研究の方法を習得することを目的とする。そのためにはまず、こどもの実態を把握するために授業ビデオを視聴し、次に小グループに分かれて担当する学習内容について指導案を作成・発表し、算数科の学習内容に対する理解を深めることとする。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 学習指導要領の改訂のポイント 3. 1年生の内容 4. 2年生の内容 5. 3年生の内容 6. 4年生の内容 7. 5年生の内容 8. 6年生の内容 9. 指導案作成 10. " 11. " 12. 授業研究 13. " 14. " 15. 総括 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「新訂算数教育の理論と実際」数学教育研究会／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：理科		授業形態：講義	単位：2単位 授業時間数：30H
教科に関する科目		・理科	
森寄 正幸	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育・教育方法・教育課程・理科・保育内容「環境」分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ 小学校理科学習指導要領に起において目指している理科の資質・能力を整理するとともに求められる「見方・考え方」についての理解を深める。			
授業の概要 小学校理科の変遷を学び、今回の改定の基本的な考え方やポイントを整理する。新しい理科の目指すところを理解し、さらに各学年で育成する資質、能力を視座に入れ、内容を確認していく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 学習指導要領 3. 理科指導要領の変遷 4. 〃 5. 物理領域内容の基本事項 6. 化学領域内容の基本事項 7. 生物領域内容の基本事項 8. 地学領域内容の基本事項 9. 中学校理科との関連 10. 理科と環境教育 11. 学習指導案作成 12. 〃 13. 〃 14. 授業研究 15. 授業研究 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「理科」内山裕之・秋吉博之／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：社会		授業形態：講義	単位：2 単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法 に関する科目		・教科に関する専門的事項 ・社会	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ ・新学習指導要領（社会）における目標、および、各学年の目標と内容 ・社会科の位置づけ及び課題 ・学習指導上の留意点についての理解 ・評価の観点についての理解			
授業の概要 「学指導要領」（社会）の目標、および各学年の目標と内容を認識する学習を進め、指導計画の作成について欠かせない基本的な知識を着実に身につけること、および、具体的な学習の指導計画を事例として、その特色を分析しながら、指導計画作成の根本原理を習得する。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 新しい社会科がめざすもの 2. 情報化した社会に関する内容 3. 方位、地図に関する内容 4. 経済の基礎となる内容 5. 法やきまりに関する内容 6. 地域の人々の協力に関する内容 7. 47都道府県の名称と位置に関する内容 8. 地域の資源の保護・活用に関する内容 9. 世界の主な大陸や海洋 主な国の位置 10. 自然条件から見て特色のある地域の人々の生活 11. 歴史分野 国風文化 12. 歴史分野 室町文化 13. 歴史分野 町人文化 14. 政治、憲法と国民生活 15. 試験対策 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「小学校社会科教育」社会認識教育学科／著（学術図書出版社）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：書写		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・教科に関する専門的事項 ・国語（書写を含む。）	
早川 礎子	[実 務 経 験]読売書法会玄筆会毛筆六段位 [研究テーマ]姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 小学校国語科書写の学習指導に必要な知識・技能を高め、その学習指導法に関する理解を深める。学習指導要領の趣旨に則った書写の授業を展開できるようになる。 ①小学校国語科書写の目標・内容・方法を理解して授業を組み立てることができる。（知識・理解） ②小学校国語科書写の内容と指導法に関心を持ち、すすんで実技力を高め、指導法を工夫しようとしている。（関心・意欲・態度） ③教材研究及び授業研究の方法を理解し、指導に必要な実技力を習得する。（技能・表現）			
授業の概要 字形の認知、また筆使いの習得の為、用筆、形態美、線の鋭さ、点画の厳しさなど、極楷とも言われる楷書の代表的な「九成宮醴泉銘」の臨書を中心に行う。毛筆→書道→芸術という発想になりがちではあるが、毛筆→硬筆→日常文書という発展を考え、正しく、整えて速く各能力を習得し、文字活動を円滑に営むことのできる基礎力を充実させる。また、適切に表現する能力を育てるとともに、番書や報告書等、小学校教員として必要となる「文字を美しく書く」という実践力を養い、応用性を身につけさせる。			
授業計画 1. 小学校国語科書写指導の現況、目標、内容及び扱い方 2. 書写に関する基礎的知識一筆順・いわゆる許容される書き方 3. 文字の中心と概形、書写用具の扱い方、基本点画 4. 点画の組み合わせ方一点画の長短・方向・接し方・交わり方 5. 文字の組み立て方 左右から成る文字・上下から成る文字 6. 文字の組み立て方 内外から成る文字、練習用紙の作成法、評価方法 7. 仮名の字形の整え方一筆使いと字形 8. 文字の大きさと配列（硬筆） 9. 〃 10. 様々な書式と筆記具の選択 11. 書写の日常化一速書きの書写リズム、板書練習 12. 書写の基本的学習指導過程、授業研究 13. 実態調査の方法、書写教材の選択と配列法、教育機器の活用法 14. 学習指導案の作成 15. 〃 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 「30日でみるみる美しい字になる朝のペン字練習帖」樋口咲子／著（ナツメ社） 「板書 きれいで読みやすい字を書くコツ」樋口咲子・青山由紀／著（ナツメ社） 「漢字指導の手引き」久米公／編著（教育出版）			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。 授業時に次時の予告をするので、指示されたテキストの該当箇所を読み、準備して授業に望むこと。 授業時間外にも硬筆練習を行い、書写技能の習熟を図ること。 受講生の理解や進度にあわせて課題は適宜取り入れる。			

授業科目名：（選）生活		授業形態：講義	単位：2単位
教科及び教科の指導法に関する科目		・教科に関する専門的事項 ・生活	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
塩野 健一	[実務経験]小学校教諭・中学校教諭（保健体育）・放課後児童クラブ主宰 [研究テーマ]教育・教育課程社会科・生活科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 幼児期・児童期にふさわしい生活のあり方について一般的な視点から理解する。また、幼児期に焦点をあて、生活保育のあり方、進め方について実践的に学ぶ。さらに児童期に焦点をあて、小学校の生活科を中心に具体的な活動や生活経験を教育的に意味づけることを学んでいく。			
授業の概要 改訂された新学習指導要領のポイントを理解し、生活保育の在り方や進め方に関する知識を深める。また、幼児期の遊びを通した総合的な学びからより自覚的な学びへの円滑な移行ができる学習指導力育成のため、指導案作成にも取り組む。			
授業計画 1. 生活保育の理念 2. 生活保育の思潮（1） 3. 生活保育の思潮（2） 4. 幼稚園教育要領・保育所保育指針と「生活」の関係 5. 生活をふまえた保育内容 6. 幼児の遊びと生活保育 7. 幼児の内面理解（1） 8. 生活保育の展開と指導案 9. 指導案作成 10. 授業研究 11. こどもをめぐる社会 12. 移りゆく社会生活と子育ての変容 13. 地域の生活環境の変容と子育て支援 14. 幼児教育の振興と保・幼小連携推進の施策 15. 生活保育から「生活科」への連携 16. 試験			
テキスト 「生活」小林邦子・内山裕之・長瀬善雄・川渕博祥・田井敦子・和田真由美／著（姫路大学） 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選）音楽		授業形態：講義 ＋集中	単位：2単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・教科に関する専門的事項 ・音楽	
倉田 照子	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ ・音楽理論を理解し、読譜能力が高まり音楽の構造等が理解出来る。 ・リズムアンサンブルの実践やピアノの基礎的奏法の習得を行う。児童の音楽活動のためのピアノ奏法を学び、ピアノの基礎的な演奏技術を身につける。 ・小学校学習指導要領音楽の内容における「呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能」のもと、声楽における姿勢・呼吸・発声についての基本的な技能・知識を学び、演習することで歌唱技術を高め、歌唱指導の充実へと繋げていく。			
授業の概要 音楽の決まり事である様々な楽典を習得することによって読譜力が上がり、実際の演奏や音楽の鑑賞能力や構造的理解も高まる。また、音楽科教育に必要な知識・技能を学び、演習を通して児童の成長を促す音楽的活動を創造する力を身につける。			
授業計画 1. 楽譜の基礎、音名 2. 音符と休符 3. 拍子とリズム 4. 奏法の書き方、反復と省略の書き方 5. 音程 6. 音階と調 7. 和音、コードネーム 8. ICTを活用した読譜力の強化（拍と音程の認識） 9. ピアノの基礎的奏法の習得①（姿勢・運指） 10. ピアノの基礎的奏法の習得②（旋律奏） 11. ピアノの基礎的奏法の習得③（弾き歌い） 12. 歌唱基礎①（姿勢・呼吸） 13. 歌唱基礎②（発声） 14. 歌唱実践①（歌唱共通教材） 15. 歌唱実践②（重唱・合唱）			
テキスト 「音符と鍵盤でおぼえるわかりやすい楽典」 川辺真著 音楽之友社 「音楽科指導法」 山本千紗著 姫路大学通信教育課程			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選） 家庭		授業形態：講義	単位：2 単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に関する科目		・教科に関する専門的事項 ・家庭	
埴 光子	[実 務 経 験]高等学校教諭（家庭科） [研究テーマ]家庭科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 家族関係や食教育（食育），消費者教育，環境教育など学習活動全般について知見を深めていく。			
授業の概要 小学校家庭科教育のねらいは、家庭生活に関する学習を通して生活者としての基礎・基本を習得させること、家族関係の学習を通して人間としての生き方をみつめ、考えさせることにある。そこで、衣食住における基礎的・基本的な学習内容を取り扱うとともにアクティブラーニングを導入した学習教材の活用、また、生活科、総合的な学習の時間、道徳やその他の教科との関連性に言及し、生活に役立つ実践的・体験的な授業の分析や学習教材の開発、情報機器を活用できる能力を身につける。			
授業計画 1. 家庭科教育の現状と今日的課題 学習指導要領改訂のポイント及び方向性についての説明 2. 小学校における家庭科教育の意義とねらい 3. 家庭科教育における家庭生活・家族の捉え方及び家族について指導する要点と問題点 4. 自己肯定感を育てる体験的学習とその意義 5. 家庭生活と家族に関する学習教材の作成及びポストイットによる相互評価活動 6. 快適な住まい及び防災（地震）対策の学習教材（情報通信ネットワークの活用） 7. 防災教育に関する学習教材の作成及び相互評価活動（アクティブ・ラーニング） 8. 小物入れ（巾着袋）の製作を通して基礎縫いの習得 9. 消費者教育の現状と課題及び学習教材の説明 10. 消費者教育（「A 家族・家庭生活」「B 衣食住と生活」も可）に関する課題発見学習及び発表（情報機器の活用） 11. 食に関する指導と食育教育との関連性と家庭科における栄養指導 12. 実践的・体験的な学習 発酵食品味噌作り（食品は変更有り） 13. 食生活に関する教材作り① 課題設定 14. 食生活に関する教材作り② 資料調べ（情報通信ネットワークや書籍の活用） 15. 食生活に関する教材作り③ 作品完成及び相互評価活動 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：（選） 体育		授業形態：講義 ＋集中	単位：2 単位 授業時間数：30H
教科及び教科の指導法に 関する科目		・ 教科に関する専門的事項 ・ 体育	
塩野 健一	[実 務 経 験] 小学校教諭・中学校教諭（保健体育）・放課後児童クラブ主宰 [研究テーマ] 教育・教育課程社会科・生活科分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ			
・ 子どもの心身の発達特性や運動特性を理解する。 ・ 子どもの健全な心身の発達を促すための身体活動について理解する。 ・ 子どもが主体的に身体活動を行うことができるための実践的な指導方法を理解する。			
授業の概要			
発達途中にある子どもは、自分の体を巧みに動かす神経―筋機能の連携による調整力の発達に重点を置くことが、その後の運動機能の発達において重要となる。また、「上手にできない」や「運動がきらい」といった子どももいるので、運動有能感を高めることも欠かすことができない。そのため、子どもの心身の発達特性を十分に理解し、この時期の体育的活動の指導者として必要な基礎的な知識と技能を学修し、子どもの健全な心身の発達を促すと同時に、子どもが主体的に楽しく安全に身体活動が行うことができるための実践的な指導方法を修得する。			
授業計画			
1. 子どもの調整力の発達 2. 子どもに経験させることが望ましい基本動作について 3. 子どもが行う体操の意味 4. 基本の運動・体づくり運動 5. 子どものボール運動について 6. 子どものマット運動について 7. 子どもの跳び箱運動について 8. 子どもの体力・運動能力の発達 9. 基本動作の発達 10. ボール運動① 11. ボール運動② 12. マット運動① 13. マット運動② 14. 跳び箱運動① 15. 跳び箱運動②			
テキスト			
「小学校学習指導要領解説」（文部科学省）			
参考書・参考資料等			
プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価			
出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：保育内容（人間関係Ⅱ）		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法に関する科目		・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
湯浅 阿貴子	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容・保育内容「人間関係」・保育課程論・発達障害児・ 発達心理分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解を深めるとともに、生活場面における幼児の様々な「人とかかわり」とその育ちについての理解を深める。			
授業の概要 教育の場で、一人ひとりが大切にされ、こどもの理解を深めながら、互いが豊かな関わりがもてる集団を形成するにはどのような課題があるのか、保育における人間関係を様々な側面から考察し、事例をもとに学ぶ。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「人間関係」を理解する 2. 領域「人間関係」と他領域との関係 3. 乳幼児期の発達 4. 幼児と保育者の信頼関係の形成・園生活と人との関わり 5. 自己発揮と自己抑制 6. 幼児同士の問題解決とその援助 7. 人との関わりを見る視点と保育者の役割 8. 人との関わりを深めるグループワーク・指導案作成 9. 「協同する経験」の教育的意義と保育者の援助・小学校との連携 10. こどもを取り巻く人間関係 11. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」・信頼関係の基盤 12. こどもと保育者の信頼関係 遊びの中の人との関わり 13. 自我の発達と自己主張・自己抑制 14. 個と集団の育ち・協同性を育む・規範意識と道徳性の芽生え 15. 幼児教育の今日的課題 16. 試験			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 授業態度、試験をもって評価する。			

授業科目名：保育内容（健康Ⅱ）		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法に関する科目		・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
中村 容一	[実 務 経 験]健康・体力づくり事業財団研究員 [研究テーマ]健康教育・保育内容「健康」分野 豊岡大学通信教育部教授・姫路大学通信教育課程非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ こどもが経験する園での集団生活を通して、健康で安定した生活を送るために必要な態度や習慣を培う指導方法を知り、保護者との連携方法についても理解する。			
授業の概要 「保育内容（健康Ⅰ）」の学習内容をもとに、日常生活における身の回りのことを自分でする基本的生活習慣の確立、遊びや集団生活を通して友達や教育者・保育者などの他者との関わり方など、こどもが健康で安定した生活が送れるような態度や習慣を培う指導方法について学ぶ。指導案の作成や活動の実践を演習形式で体験することにより、こどもの健康教育及び安全教育に関する理解を深める。			
授業計画 1. 幼稚園教育要領及び保育所保育指針における「健康」を理解する 2. 他領域との関係と基本的生活習慣 3. こどもの健康問題及びこどもの生活の変化と健康 4. 交通安全指導 5. 集団生活における健康について 6. 集団生活における必要な態度・習慣 7. 形態の発育と機能の発達 8. 個人の発育・発達のとらえ方及び発育発達の測定と評価 9. 事故防止その対応 10. 〃 11. 健康指導の事例 12. 〃 13. 領域「健康」に関する年間行事 14. 健康・衛生・安全管理 15. 今日の課題と小学校体育科に向けて 16. 試験			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 授業態度、試験をもって評価する。			

授業科目名：保育内容（環境Ⅱ）		授業形態：講義 （集中）	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域及び保育内容の指導法に関する科目		・保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	
湯浅 阿貴子	[実 務 経 験]幼稚園教諭 [研究テーマ]保育内容「環境」・保育課程論・発達障害児・ 発達心理分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 私たちは、社会環境、自然環境など、さまざまな環境の影響を強く受けながら、人格を形成している。その意味で、教育とは、こどもたちに望ましい環境を提供する営みともいえる。環境Ⅱでは特に社会事象について考え、こどもへの最適な社会環境を追及する。			
授業の概要 こどもたちを取り巻く環境について、目指すものやかかわる力から、環境に対するかかわり方や実践力を身につけるとともに、現代的な課題にも焦点をあて、幼児教育との関係及び問題点について学ぶ。			
授業計画 1. 環境教育のめざすもの 2. 発達段階と環境との関わり方の理解 3. 環境にかかわる力 4. 〃 5. 物や人とのかかわり 6. 〃 7. 物や道具とのかかわり 8. 〃 9. 標識の意味の理解 10. 文字の意味の理解 11. 数量の意味の理解 12. 図形の意味の理解 13. 幼児教育の現代的課題と環境 14. 〃 15. 環境における今日的課題 16. 試験			
テキスト 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） 「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 受講態度、試験等により総合的に評価する。			

授業科目名：こどもと表現Ⅰ		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法 に関する科目		・領域に関する専門的事項（表現）	
大森 淳子	[実 務 経 験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ ・幼稚園教育要領の領域「表現」のねらい及び内容について、他領域と関連付けながら理解を深める。 ・生活や遊びの中で幼児の気づきを促し、豊かな感性や表現の育ちを支えるような表現活動を展開することができる。			
授業の概要 感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 身近にあるものを身体の諸感覚で捉え、素材に働きかけその特性を生かした表現ができる。 協同して表現することを楽しみ、他者の表現受け止め、共感し、より豊かな表現活動を展開させることができる。 様々な表現の基礎的知識・技能を理解し、幼児の表現活動を豊かにすることができる。			
授業計画 1. 領域「表現」のねらい及び内容の理解・幼児の表現の発達の理解 2. 環境との対話・表現と感性の関係 3. 〃 4. 素材との出会い・素地そのものと遊ぶ 5. 〃 6. 音遊び・歌遊び・わらべうたを「学びの視点」から捉える 7. 〃 8. 歌唱指導の在り方・指導案作成と実践 9. 〃 10. 音楽と融合した身体表現・鑑賞 11. 〃 12. 総合表現（協同する経験・劇表現・グループワーク）・指導案作成と実践 13. 〃 14. 表現をめぐる諸問題・保育者の援助・総括 15. 〃 16. 試験			
テキスト プリントを講義時に配布する。			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：こどもと表現Ⅱ		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法 に関する科目		・領域に関する専門的事項（表現）	
富金原 光秀	[研究テーマ]造形教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 幼稚園教育要領、保育所保育士審、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を中心に理解し、幼児にとって大事な五感から得られるものを生かした制作活動を行いながら体得していく。			
授業の概要 幼児が興味を持ちながら、楽しくここの個性を発揮できるようにイメージしながら、助言方法を身につけるため、いろいろな素材、技法を体験する。技術的なことや発送（アイデア）等発達段階も理解しながら素材の扱いなどを身につける。表現（造形）という領域にとどまらず、ほかの領域との関連も含め、大きな視野を持つ。			
授業計画 1. 授業内容の説明、人と造形表現について 2. 造形教育の変遷、発達段階と表現活動について 3. 〃 4. 五感と造形表現（実技課題） 5. 〃 6. モダンテクニック技法1（実技課題） 7. 〃 8. モダンテクニック技法2（実技課題） 9. 〃 10. 描画材料について（実技課題） 11. 〃 12. 身近な素材でのおもちゃづくり（実技課題） 13. 〃 14. 季節・行事と関連した表現 15. 〃 16. 試験			
テキスト プリントを講義時に配布する。			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：こどもと表現Ⅲ		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法 に関する科目		・領域に関する専門的事項（表現）	
大森 淳子	[実 務 経 験]ピアノ講師・演奏家 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
倉田 照子	[実 務 経 験]ピアノ講師・小学校教諭・中学校教諭（音楽）・声楽家・ 児童合唱団主宰 [研究テーマ]音楽教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ ・こどもの発達段階を理解し、様々な表現を感じる、聴く、楽しむことを通して、豊かにイメージ することができる。 ・領域「表現」に関する様々な表現活動を通して知識・技能を培い、豊かな表現力へと繋げていく ことができる。 ・協働して表現することを通し、他者の表現を受容し、多様な表現の在り方について共感し、創造 性へと繋げていくことができる。			
授業の概要 領域「表現」において求められる豊かな感性や表現する力、創造性について理解し、こどもの表現活 動を支えていく支援について考える。様々な表現活動の実践から知識・技能を養い、共同して取り組む 活動を通してより豊かな表現力を身につける。			
授業計画 1. 領域「表現」のねらい及び内容 こどものリズム感覚を養う遊び 2. 〃 3. 音に合わせた自由表現におけるピアノ演奏の工夫 鍵盤ハーモニカの奏法 4. 〃 5. こどもの身体表現のための律動曲 6. 〃 7. 豊かな表現を目指した弾き歌い 8. 〃 9. 発達段階を考慮した歌の選曲について 10. 〃 11. 豊かな表現のために 絵本を題材とした音楽表現について協働して考える 12. 〃 13. 協働して表現する 絵本を題材とした音楽表現について発表する 14. 〃 15. I C Tの活用と総括 16. 試験			
テキスト プリントを講義時に配布する。			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：身体表現		授業形態：講義 (集中)	単位：1 単位 授業時間数：15H
領域および保育内容の指導法 に関する科目		・保育内容の指導法（情報機器及び教材活用を含む。）	
唐澤 優江	[実 務 経 験]高等学校教諭（保健体育）・舞踊家・ダンス教室講師・ ピラティスインストラクター・幼児運動指導者 [研究テーマ]舞踊教育・幼児体育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 幼児の発育発達と運動特性を理解し、発育発達に即した身体表現遊び、運動遊びを実践する能力を身につけることを目的とし、対象となる幼児に適した様々なテーマ（課題）の設定、環境作り、指導上の留意点を踏まえ、適切な援助や指導の実践ができることを目標とする。			
授業の概要 幼児の創造性や想像力を伸ばす身体表現遊び、運動遊びを体験し、その楽しさを自ら味わい、さらに自身で工夫をして遊びを発展、創作していく。また、指導上の留意点に注意をして指導、援助することにより、新たな課題を見つけ解決していく。			
授業計画 1. 幼児の発育発達の特性と身体表現遊び 2. 運動遊びの効果と必要性 3. 幼児の身体イメージ 4. わらべ歌や手遊び歌の発展による運動遊び 5. リズムに合わせた表現運動、模倣の動き 6. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：フープ 7. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：ボール 8. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：マット 9. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び 10. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：縄 11. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：とび箱 12. 遊具を使った身体表現遊び、運動遊び：平均台 13. ストーリー仕立ての運動遊び ーサーキットー 14. 幼児の発育発達に適した表現運動遊びの指導案作成 15. 指導案に基づいた保育の実施と相互評価・振り返り 16. 試験			
テキスト プリントを講義時に配布する。			
参考書・参考資料等 「子どもの身体表現 ～からだところ・あらわしてあそぼう～」 西洋子他／著 （市村出版）			
学生に対する評価 出席状況、授業態度、試験等の結果を総合して評価する。			

授業科目名：児童教育研究Ⅰ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教育の基礎的理解に関する科目		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
佐々木 涼	[実務経験]幼稚園教諭		
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ (保育原理) 社会的集団保育の場としての保育所保育の在り方についての基本的な認識を得ることを目指す。保育所保育指針に基づいた保育の考え方を実践的に示しながら、保育の歴史の概略、保育の内容と方法と基本、現代社会における保育の課題等について論じる。 (教育方法論) 1. 教育方法の歴史を振り返り、その概要を理解する。 2. 現行の教育課程及び学習指導の理論と実践について考察し、授業を教える立場から捉え、単元や学習指導過程を設計、構想することの大切さについて理解する。 3. パワーポイント等を使用しプレゼン等を試み、情報活用の技術について理解する。			
授業の概要 (保育原理) 保育の理念、保育の基本原則を学び、保育の歴史を通して時代による家族と社会、教育のあり方を理解する。また、「保育所保育指針」、「幼稚園教育要領」、「幼稚園教育要領」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」等の内容を踏まえ、保育の質を高める保育のあり方を学ぶ。さらに、日本及び諸外国の保育制度や施設の変遷に関する学びを通して、保育に関する様々な理念や思想を知り、これからの保育のあるべき姿を考える。 (教育方法論) この授業では、これからの社会を担うこどもたちに求められる資質・能力をどのように学校教育において育成するのかを考察することが目的である。そのために、これまでの教育方法の変遷を踏まえ、新たな授業構成や授業展開及び情報機器を含めた教材の活用方法について基礎的理論を理解する。また、それらを授業においてそのように資質・能力の育成に結びつけていくのかを実践的に考察する。			
授業計画 姫路大学編入のための再履修科目 1. 保育の意義 2. こどもの最善の利益を考慮した保育 3. 家庭との連携 4. 保育の社会的意義 5. 保育所保育指針における保育の基本 6. 保育の目的と目標 7. 環境による保育 8. 養護と教育の一体性 9. こどもの健康と安全 10. 子育て支援 11. 近代の保育思想 12. 現代の保育思想 13. 保育施設の発展 14. 保育の歴史的変遷 15. 保育の現状と課題 16. 試験 1. 教育方法の理論 2. 教育方法の歴史的展開 3. 江戸時代の教育 4. 明治以降から戦前までの教育方法の変遷の歴史 5. 終戦によって導入された問題解決学習 6. 問題解決学習から再び系統学習へ 7. 系統学習から人間中心カリキュラムへ 8. 新しい学力観、生きる力、PISA型学力 9. 教育メディアの発達と教育技術の革新 10. 授業の概念と様々な学習形態 11. 単元設定および授業の組み立て方 12. 学力観 13. 教育の方法と生徒指導 14. 幼児教育の方法 15. 保育方法 16. 試験			
テキスト 「保育原理」栗田あけみ・和田真由美／著（姫路大学） 「教育方法論」内山裕之・大里孝之・秋吉博之・武田富美子／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 レポート内容、試験、受講態度等を総合的に評価する。			

授業科目名：児童教育研究Ⅲ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H																																
教育の基礎的理解に関する科目		・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム、マネジメントを含む） ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程																																	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学 姫路大学通信教育部非常勤講師																																		
青柳 賢治	[実務経験]教育相談員・スクールカウンセラー・高等学校教諭（英語） [研究テーマ]教育相談・発達心理学・教育心理学分野 姫路大学通信教育部非常勤講師																																		
授業の到達目標及びテーマ （教育課程論）教育課程の編成と指導計画の作成について具体的に習得し、編成・実践・点検・評価・改善の過程についてその全体像を動的にとらえ理解する。保護者や関係機関との連携について学ぶ。 （発達心理学）保育および教育現場において必要となる心理学の基礎知識を学ぶ。また、こどもの身体の発達、知覚の発達、知的機能の発達、言葉と社会性の発達、感情の発達、自己概念の発達、人の相互的にかかわりの発達等について学び、こどもへの理解を深める。																																			
授業の概要 （教育課程論）小学校、幼稚園での教育課程の基本及びカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。また、教育課程の編成論及び作成についても包括的に考察し、学んでいく。 （発達心理学）発達心理学の必要性、発達に影響する要因、発達に関する主な理論、発達段階や発達課題についての知識を習得する。ヒトの各領域における発達の様相についての知識を習得する。																																			
授業計画 姫路大学編入のための再履修科目 <table><tr><td>1. 教育課程の基礎理論と小学校教育</td><td>1. 発達の定義</td></tr><tr><td>2. カリキュラムの基礎理論①</td><td>2. 発達段階と発達課題</td></tr><tr><td>3. カリキュラムの基礎理論②</td><td>3. 身体と運動機能の発達</td></tr><tr><td>4. 諸外国における教育課程の変遷</td><td>4. 知覚の発達</td></tr><tr><td>5. 日本における教育課程の変遷①</td><td>5. ピアジェの認知発達論</td></tr><tr><td>6. 日本における教育課程の変遷②</td><td>6. 記憶の発達</td></tr><tr><td>7. 教育課程の法と行政</td><td>7. 言語・コミュニケーションの発達</td></tr><tr><td>8. 教育課程の編成と実際①</td><td>8. 遊びの発達</td></tr><tr><td>9. 教育課程の編成と実際②</td><td>9. 愛着性の発達 親子関係の成立</td></tr><tr><td>10. 教育課程・保育課程と保育の基本①</td><td>10. 社会性の発達</td></tr><tr><td>11. 教育課程・保育課程と保育の基本②</td><td>11. 道徳性の発達</td></tr><tr><td>12. 日本における保育の歴史</td><td>12. 人格の発達</td></tr><tr><td>13. 教育課程・保育課程編成の実際①</td><td>13. 情緒の発達</td></tr><tr><td>14. 教育課程・保育課程編成の実際②</td><td>14. こどもの発達の背後にあるもの</td></tr><tr><td>15. 教育課程をめぐる諸問題</td><td>15. 発達のつまずき</td></tr><tr><td>16. 試験</td><td>16. 試験</td></tr></table>				1. 教育課程の基礎理論と小学校教育	1. 発達の定義	2. カリキュラムの基礎理論①	2. 発達段階と発達課題	3. カリキュラムの基礎理論②	3. 身体と運動機能の発達	4. 諸外国における教育課程の変遷	4. 知覚の発達	5. 日本における教育課程の変遷①	5. ピアジェの認知発達論	6. 日本における教育課程の変遷②	6. 記憶の発達	7. 教育課程の法と行政	7. 言語・コミュニケーションの発達	8. 教育課程の編成と実際①	8. 遊びの発達	9. 教育課程の編成と実際②	9. 愛着性の発達 親子関係の成立	10. 教育課程・保育課程と保育の基本①	10. 社会性の発達	11. 教育課程・保育課程と保育の基本②	11. 道徳性の発達	12. 日本における保育の歴史	12. 人格の発達	13. 教育課程・保育課程編成の実際①	13. 情緒の発達	14. 教育課程・保育課程編成の実際②	14. こどもの発達の背後にあるもの	15. 教育課程をめぐる諸問題	15. 発達のつまずき	16. 試験	16. 試験
1. 教育課程の基礎理論と小学校教育	1. 発達の定義																																		
2. カリキュラムの基礎理論①	2. 発達段階と発達課題																																		
3. カリキュラムの基礎理論②	3. 身体と運動機能の発達																																		
4. 諸外国における教育課程の変遷	4. 知覚の発達																																		
5. 日本における教育課程の変遷①	5. ピアジェの認知発達論																																		
6. 日本における教育課程の変遷②	6. 記憶の発達																																		
7. 教育課程の法と行政	7. 言語・コミュニケーションの発達																																		
8. 教育課程の編成と実際①	8. 遊びの発達																																		
9. 教育課程の編成と実際②	9. 愛着性の発達 親子関係の成立																																		
10. 教育課程・保育課程と保育の基本①	10. 社会性の発達																																		
11. 教育課程・保育課程と保育の基本②	11. 道徳性の発達																																		
12. 日本における保育の歴史	12. 人格の発達																																		
13. 教育課程・保育課程編成の実際①	13. 情緒の発達																																		
14. 教育課程・保育課程編成の実際②	14. こどもの発達の背後にあるもの																																		
15. 教育課程をめぐる諸問題	15. 発達のつまずき																																		
16. 試験	16. 試験																																		
テキスト 「教育課程論」田中亭胤／監修 金岩俊明・田中亭胤・和田真由美／著（姫路大学） 「発達心理学」小河晶子・西本望・西本佳子／著（姫路大学）																																			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。																																			
学生に対する評価 レポート内容、試験、受講態度等を総合的に評価する。																																			

授業科目名：児童教育研究Ⅳ		授業形態：演習	単位：2単位 授業時間数：30H
教育の基礎的理解に関する科目		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
木村 祐介	[実務経験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。各授業はもちろん指導法に関する教科への自己研鑽を行う。			
授業の概要 これまでの学生生活や実習を振り返り、社会人になる前に自己の課題を明確にする。そして、各々の課題を克服するために、研鑽に励む			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 2. 自己課題の明確化 3. 研究計画立て 4. 指導法に関する各教科への研鑽 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 反省、総括 16. 試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 主体的な活動、研究態度等により総合的に評価する。 教員としての資質を自らが磨けるよう主体的に活動すること。			

授業科目名：（選） 小学校教育実習指導		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
教育実践に関する科目		・教育実習	
倉田 照子	[実 務 経 験]小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ]教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学		
授業の到達目標及びテーマ 教育実習の目的・意義の理解を深めるとともに、教育実習の事前・事後において学習指導の形態、技術、児童の状態、実地授業の方法等について必要な知識や技術の確認を行う。また、実習で学んだことを話し合い、相互の学びを共有化して実践能力の向上を図る。			
授業の概要 これまでに学んだ関連科目の内容を踏まえ、実習生として必要な心得や行動、教科等の指導法や学級経営の在り方などについて理解を深めるとともに教師としての責務を学ぶ。また、実習の事後においては、各自問題点を整理して課題を見出し、将来を見据えた実践的指導力の向上につなげていく。			
授業計画 1. 授業オリエンテーション 小学校教育について 2. 事前研究 実習の心得 3. 生徒指導について 4. 板書 発問と指名 ノート 机間指導 情報機器 プリント作成 5. 研究授業 6. 観察実習 参加実習 7. 本実習 事後研究 8. 学校の組織 9. 学習指導と生徒理解 10. 生徒指導と自動理解 11. 教育課程 12. 教科の指導 13. 道徳、特別活動、総合的な学習の時間の指導 14. 学級経営と生徒指導 15. 教員としての勤務 16. 試験			
テキスト 「小学校学習指導要領解説」（文部科学省） 「教育実習事前・事後指導（小学校）」 長瀬善雄・長瀬荘一・谷坂昇・野坂静枝・榎並雅之・古田貴美子／著（姫路大学）			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 出席状況、受講態度、授業中に行う小テスト、提出課題および試験等により総合的に評価する。 小学校教育実習に向かって必要な知識、心得を学ぶ。			

授業科目名：（選） 児童教育研究Ⅴ		授業形態：講義	単位：1 単位 授業時間数：15H
教育の基礎的理解に関する科目		・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	
木村 祐介	[実 務 経 験] 小学校教諭 [研究テーマ] 教育学		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。幼児教育への研究等を積極的に行うことによって、幼稚園教諭 1 種免許取得するために必要な幼児教育への理解を深める。			
授業の概要 幼児教育の研究等を通して、こどもへの理解を深める。			
授業計画 幼児教育についてのテーマを決め、論文を作成します。授業研究を積極的に行ってください。 こどもを取り巻く現代社会の中からそれぞれ論文のテーマを見つけてください。 1. オリエンテーション 2. 幼児教育についての研究テーマの決定 3. 研究計画立て 4. 調査・研究 5. " 6. " 7. " 8. " 9. 中間発表・フィードバック 10. 調査・研究 11. " 12. " 13. " 14. " 15. まとめ 16. 試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 図書館やインターネット等を活用すること。			
学生に対する評価 主体的な活動、研究態度等により総合的に評価する。 教員としての資質を自らが磨けるよう主体的に活動すること。			

授業科目名：（選）小学校教育実習		授業形態：実習	単位：4単位 授業時間数：160H
教育実践に関する科目		・教育実習	
倉田 照子	[実 務 経 験]小学校教諭・中学校教諭（音楽） [研究テーマ]教育分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 小学校教員の指導のもとに実際の学校現場における児童との直接的なかかわりを通して教員となるための実践上、研究上の基礎的な能力、態度を養成する。同時に教育者としての使命感、教科等の指導を通じた実践指導力の基礎を体得する。			
授業の概要 第1週目は、観察実習として客観的に教育を見ることが中心となる実習を行う。第2週目は参加実習として教師の助手的な立場で、実際に授業に参加する実習を行う。第3週目は、第4週目に行われる模擬授業について研究を進め、当日に向けた課題等について考える。第4週目は、指導計画を立て模擬授業を行う。模擬授業を通してこども達についてより学び、考察をしていく。			
実習内容 教育の現場で教育実践上の課題を見出し、また解決する上で必要とされる資質・能力を培います。 各自問題点を整理し、将来を見据えた実践的指導力の向上に努めてください。 小学校における実習で、観察、参加、部分、実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。 ① 小学校の役割や機能についての理解 ② 小学校における児童の実状についての理解 ③ 観察、参加、部分（指導）実習等を通して幼稚園・小学校の教育（教科・道徳・外国語活動・総合的な学習の時間、特別活動、生徒指導等）の実状についての理解 ④ 特別支援保育・教育についての理解 ⑤ 外国語活動についての理解 ⑥ 幼稚園・小学校と家庭、地域との関係についての理解			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 プリントを講義時に配布する。			
学生に対する評価 実習先からの成績評価をもとに普段の授業態度や生活態度を加味し、評価する。			

授業科目名：（選） 児童教育研究Ⅵ		授業形態：実習	単位： 4 単位 授業時間数：60H
学外実習		・ 児童教育研究Ⅲ	
木村 祐介	[実 務 経 験]小学校教諭 [研究テーマ]教育学		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。幼児教育のD X化についての研究等を積極的に 極的に行い、幼稚園教諭 1 種免許取得するために必要な幼児教育への理解やデジタルコンテンツについ ての理解を深める。			
授業の概要 幼児教育のD X化について研究を深め、こどもへの理解を深める。			
実習内容 幼児教育のD X化について考え、現場における活用方法 や利点について研究を行う。 例：業務新ツールの利用、活用方法等 1. オリエンテーション 2. 幼児教育のD X化についての研究テーマの決定 3. 研究計画立て 4. 調査・研究 5. " 6. " 7. " 8. " 9. 中間発表・フィードバック 10. 調査・研究 11. " 12. " 13. " 14. " 15. まとめ 16. 試験			
テキスト 特になし。			
参考書・参考資料等 特になし。			
学生に対する評価 主体的な活動、研究態度等により総合的に評価する。 教員としての資質を自らが磨けるよう主体的に活動すること。			

授業科目名：(選) 介護体験実習		授業形態：実習	単位：1 単位 授業時間数：56H
小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律			
栗山 智子	[実 務 経 験]社会福祉士・介護福祉士・介護支援専門員・生活相談員 [研究テーマ]社会福祉・福祉マネジメント・介護分野 姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ 社会福祉施設および特別支援学校での「介護・介助体験」を原体験として、生あるものの尊さと共に生きるものの意味、社会的弱者に対する人権意識とノーマライゼーションの思想を深める。			
授業の概要 今、学校教育の現場では、経済的な効率を過度に追い求める能力主義にあって、「人間の価値観とは何なのか。」という価値観の転換を迫られている。いじめ・不登校など教育現場は困難な状況にあるが、介護等体験における社会福祉施設および特別支援学校での「介護・介助体験」を原体験として、生あるものの尊さと共に生きるものの意味、社会的弱者に対する人権意識とノーマライゼーションの思想を深める。			
実習内容 1. 5日間 社会福祉施設（児童福祉施設、介護施設等）での利用者の介護、介助を体験する。 2. 2日間 特別支援学校においての教育、支援のあり方を学び、体験する。 文部科学省による教職免許に伴う介護等体験特例法「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連絡の理念に関する認識を深めることの重要性に鑑み、教員として資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる措置を高ずる」に基づき、介護体験実習を行う。			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 「教育職員免許法施行規則」及び姫路大学通信教育部の成績評価に則る。 決められた期間の実習になるので体調に留意すること。			

授業科目名：（選） 児童福祉研究		授業形態：演習	単位：1 単位 授業時間数：15H
・ 学外実習		・ 児童福祉研究	
福田 翔平	[研究テーマ]デジタルコンテンツと人間教育分野		
授業の到達目標及びテーマ この授業は学生自身が主体的に学ぶことを目的としている。児童福祉についての研究等を積極的に行い、児童指導員任用資格取得するために必要な福祉についての理解深める。			
授業の概要 児童家庭福祉を取り巻く現状を学び、その中で子どもの権利がどのように保障されてきたのか、あるいはされるのかについて検討する。ボランティアなどを通して児童家庭福祉を取り巻く現状について学ぶ。			
実習内容 児童福祉について考え、現場における実情を把握する。 例：児童虐待の防止につながる子育て支援、児童福祉施設での生活支援等 1. オリエンテーション 2. 児童福祉についてのテーマの決定 3. 研究計画立て 4. 調査・研究 5. " 6. " 7. " 8. " 9. 中間発表・フィードバック 10. 調査・研究 11. " 12. " 13. " 14. " 15. まとめ 16. 試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 主体的な活動、研究態度等により総合的に評価する。 教員としての資質を自らが磨けるよう主体的に活動すること。			

授業科目名：地域ボランティア		授業形態：実習	単位：1 単位 授業時間数：45H
専門科目		・学外実習	
大森 淳子	[実 務 経 験]ボランティア活動・県共同募金会評議員 [研究テーマ]姫路大学通信教育部非常勤講師		
授業の到達目標及びテーマ ボランティアの理念、目的、意義、現状や問題点を学習した後に、学生の主体的な計画の下にボランティア活動を体験する。ボランティア活動を通じてコミュニケーション能力や社会性を身に付ける。			
授業の概要 地域ボランティアは、地域の学童保育や社会福祉活動などへのボランティア活動を通して地域貢献と学生の質的向上に成果をあげることがを目的とする。教育の厳しさや喜びを体験し、教職を目指す者としての自覚を高め、実社会の中でどのように人間関係を作り上げていけばいいのかということを実践的に学ぶ。			
内容 45時間以上のボランティア活動を行い、活動報告書をまとめること。 <			